明治三十一年十二月十八日印刷
明治三十一年十二月二十日發行

婦人衛生雜誌

第百九號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第百九號
目次

講演

●庖廚器具の衛生上利害　理學博士　長井長義君
●妊婦の養生　Dr. I. S.
●產婦と蓐婦の養生
●芳賀軍醫正の西比利亞遠征談

衛生叢談

●學校衛生上に及ぼす害
●肺を强壯にする法
●鯉魚の結核病
●各國人の平均壽命
●痲疹
●齒痛
●氣候と病との關係
●大日本婦人衛生會記事
●廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第百八號
目次

講演

●小兒養料幷に牛乳の簡便なる消毒的貯藏器　宮本仲君
●姙婦の養生　Dr. I. S,

衛生叢談

●暖室法
●熱病者の看護法
●自轉車の害
●死亡者割合
●膓窒扶斯の看護法及豫防法
●赤痢及豫防法
●小兒の補育
●大日本婦人衛生會記事
●寄送雜誌
●廣告數件

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第百九號
（明治三十一年十二月二十日發行）

講演

◉庖厨器具の衛生上利害

理學博士 長井長義君 演説

今日は皆様にお庖厨で御遣ひになりまするお器具の、衛生上の害に爲りまする物に就て御注意致したいと思ひまして、一二の物品を持ッて參りましたから後刻御覧に入れる心算で御座います。御同前に日々の食物を煮るには、穀飯は通例鐵の釜を用ひます、其他魚獸肉類、野菜物等を煮ますには鐵の鍋を用ひますが、其他には白銅の鍋、或は近頃は鐵の金氣を除去たものに七寶薬を塗ッたものを弘く世人が用ひるやうになッて居ります。ソレからして銅の鍋の中に錫を敷きましたものを用ひます。ソレから土鍋も多く用ひられて居る、土鍋には種類が多く有りまして、堅焼は少し薬がしらけて見へます、又飯鍋の如き軟かき焼の物も有ります、近來は舶來の品で、七寶を掛けましたものも有ります、又其中には鼠色の七寶を掛けたのも、或は白色の七寶を流したのも有ります。又湯を沸しますには鐵瓶の外白い眞鍮の藥鑵も唐金の藥鑵も有ります、ソレから又勿論一般では有りませぬけれども、茶を好んで召食る方は銀の湯沸しを用ひられます、先づ大抵食事用に遣ひまする金の器は此れ位ゐなもので御座いますが、此中の何れが衛生上に害が有るか無いかの問題に就ては、我々の身体に這入りまして害の無いのは鐵のみで、其

外の金器は何れも多少害が有る、鐵は御同前の身躰の中に在る血液中にも含で居りますので、鐵は銘々のからだに多少入れないと營養が缺けるといふ位ゐに大切なもので有ります、故に鐵は、差支の無いところではない、塲合に因ッてはその鐵を態々からだに入れなければならむ必要が有る位ゐで御座います。其他の銅或は眞鍮は銅と鉒丹との混じたるもの、ソレから白銅は銅と錫の混じたるもの、ソレに掛けてある錫は、純粋の錫ではなくして、錫に鉛を加へてある、是れは錫ばかりを火に掛けても容易に塗り難いので、鉛を少しく混和すれば僅かの時間を以て容易に沸くためで有ります。ソレから七寶と云ふのは、良い七寶には衛生上に惡るい物は這入ッて居りませぬが、惡るい七寶には矢張り鉛が這入ッて居る、以上是等の金器を以て食物の煮炊きをする、其中の毒になるものは鉛、銅、鉒丹、就中銅、鉛は最も害になる、鉛は是れまでも中毒した人も澤山有ります。あゝ云ふ銅の鍋や眞鍮の鍋白銅の中に錫を敷いてある處の器具を以て煮炊きをする時分に、是等の金が食物の中に混じて來るか來ないかと云ふ問ひで御座います。銅の御鍋とか、或は錫を敷きました御鍋は皆様も實際御遣ひになッて御承知でも有りませうが、漸々と鍋が減ッて參ります。是れは洗ひますする時分にも多少減りませうが、ソレばかりてなく、古く御遣ひになると、漸々底が薄くなつて、ソコに孔が開く、ソレを見ても煮炊きをする際に、多少銅が溶けて食物の中に這入ッて往くのは確かなる證據である。又敷いてある錫は買ひたては一面に光ッて居るが、若し度々遣ふと錫が剝げて了ふ、

其剝げたのは一ッには灰を附けて磨ぐ際に減りまするが、一ッには食物の中に多少這入ッて參ります。其分量は一度には極く僅か故少しも味に變りは有ませぬが、時々皆樣方は御經驗も有ませうが、銅の鍋の樣な物を久しく遣はないと中が銹びて黑くなります、而して錫の光の銹びる程溶け易くなる、能く光ッて居ると割合に溶けませぬが銹びて居る時分には大へんに溶け易い、其時分にその鍋で、食物特に酸味のあるものを煮たときには、嫌やな、口を縮めるやうな味がする、ソレは則ち金が著しく溶けて參るので、時としては、嘔吐を催す程溶けて直接衛生上の害が有る、その量は澤山で有りませんでも、假令少々でも度々からだに這入りますと、遂に積り積ッて塵も積れば山と成るで、からだの中に這入ッて衛生を害すことが往々有ります。内務省衛生試驗所で東京の二三の料理屋から料理を取寄せて試驗をしました處が、其中に只今申上げる樣な雜物を含んで居ッた、其料理の体裁を見まして銅の鍋で製へた料理には銅が這入ッて居る、錫の鍋で製へた料理には鉛が這入ッて居る、其確かな證據は内務省から出ます處の衛生年報といふものに掲げてあります、で皆樣は御承知と思ひますから例を申しますが、東京あたりで、漬物屋に冬凍氷の時分にも青々として今木から採りたるかと思はるゝ樣な茄子を賣つて居る、ソレから梅を酢に漬け、或は酒に漬けて、而して實に五六月の比樹に實ッて居るやうなうるはしい青々とした梅を賣つて居る、彼等の色は何であるかと云ふに、皆銅で有ります。又廣く下等社會で多く用ひます昆布のうちの、青昆布

と稱へて賣つて居るものが有る、あの色もやはり銅であります、勿論是等の食物に含みます處の銅の分量は極く〳〵少ないのであるが、前にも申す通り「塵も積れば山と成る」で、漸々と金氣類が、體中の或部分に溜ッて、遂に害を爲すので有ります、デ一番早く害毒の顯はるゝは鉛です、鉛は鍋の中に敷いてある錫から食物を煮る爲めに幾分か宛出て參ります、ソレを今日皆様の御覽に入れやうと思ッて大學に取りに遣はしました。又七寶燒は誰方が御覽になつても金氣は少しもない、然し惡るい七寶流しには鉛が這入ッて居る、何故かと云ふに、一体七寶と云ふものは溶解することの一種の玻璃の樣にある粉である、その粉を溶して沸かしますと光澤が顯はれて參るのです。ソレで溶かして沸かしますときに鉛を入れると割合に低い溫度で溶解し得るソレが爲め鉛を用ひます、良い品とても惡るい品とても一見した處では少しも變らないけれども、之をお遣ひになると、殊に酸味のある物を屢々御煮なさると漸々に此鉛が溶けて、食物と共にからだの中に這入ります、食器に斯う云うものを用ひるといふのは誠に化學の知識の發達しない證據である、甚だしきは此中に礜石の毒をも含んで居ッたのを警視廳で發見したことが有ります、是等は直接生命に關はる程の害毒を爲します。ソレから土鍋の尾張邊から出ます堅燒のものは決して左ういふ惡るい事は少しも有りませぬ、鼠色の軟かい燒、若くは鯲鍋の樣な赤き色の燒には、是れまでも度々鉛を含んで居ることを發見しました、是れも沸きが早く、其上に光澤が宜いから其土鍋の外見を好くするために鉛を用ひ

庖厨器具衛生上利害

るので有ります。赤き色の土鍋、鈴鍋の如き燒のものには礬石の這入ッて居ることが有ります、故に土鍋を御遣ひになるには、鼠色或は赤き色の物は極く〳〵危險故御用ひにならぬ方が宜しい、堅き燒の土鍋ならば大へん確かで有ります、斯樣に申上げるといふと、毎日お副食物を御煮なさるに大へんに不自由で、御困難なことを御知らせ致すやうな譯で有りますが、斯う云ふ樣な事は早く御承知になッて成るべく避ける樣にしなければならない、ソレが婦人衛生會の目的で有らうと存ずるです、然らば何が宜いかといへば鐵です、飯を炊ぎ、湯を沸かしますには鐵器を用ひても、鐵が溶解することが有りませぬから、從ッて味も變りませぬ、尤も器が新らしい中は多少溶けますが二三回も遣へば後は溶けない樣になります。又副食物を煮ますにも、凡て食物は、砂糖でも肉類でも、魚肉野菜と云ふやうなものには、皆幾分の酸味を含んで居る、是れは貴婦人方の舌には容易に解りますまいが、分析をすれば之を確めることが出來るです、ソレ故に唐金或は眞鍮の鍋で是等の物を煮ますと、其度に少しづゝ溶解して食物の中に混じてからだに這入ッて參ります、鐵ならば假令溶解しても害にはなりませぬから、成べく鐵の鍋を用ひるのが宜いです。鐵の鍋も初めは金氣が出ますが、度々御遣ひになると後には出なくなります、而して其御遣ひなさり方に依ッて容易に金氣を止めることが出來るです、ソレは何か煮ます時に一度焦げ附かせますと其處から鐵の上部が溶けて金氣が出づるのですから、さう云ふ事の無い樣に常に注意すれば一旦止まッた金氣は容易に出

るものではない、只酢の澤山這入ッたものならば（日本の料理には少ないが）成るべく早く煮て他の器に入れ換ゐる様にしなければ不可、長く入れて置くと金氣が出て參ります。又鐵鍋で不適當なるものは堅燒の土鍋を用ひるが宜い、併し是れは度々壊れてうるさいものである、或は直きに瑕瑾が容ると云ふ缺点が有りますが、元、品物が廉なるもので有りますから、他の有害物の危險を侵すよりは度々買ひ換ゐて土鍋を御遣ひになッた方が宜い、殊に酸味あるものを煮るには成るたけ堅燒の土鍋をお用ひになる方が宜い、ソレで御煮になれば決して中毒の御心配は些かも無い、又急に何か御煮にある時分に唐金のお鍋を御遣ひにならなければ外に無いといふ際には、其鍋の中が能く燦々と光るやうに御磨きになつて、純粹の金屬銅であッたならば早く御煮になれば銅の溶け出づる様なことは有りませぬ、併しソレも能く光ッて居らぬのを只お洗ひになッて水で漱いだ位ゐでは必ず銅が食物の中に這入ッて參ります。若し又錫を敷いた鍋の錫の剝げたときには早く塗り替へなければならない。又寧ろ日本の錫を敷いた鍋であるならば、全く錫を敷かない銅のよく磨いたものゝ方がまだ害が少ない、あの錫は純粹の錫でないから少し酸味あるものを煮ると必ず溶けて參り、からだの中に入ります、デ近來は先刻も申した舶來の七寶燒の鍋が有りまして、ソレは價も大へん高いが、遣ッて見て保方も宜しく、又鉛の含む恐れなどは一切ないから、縱ひ酸味あるものを煮ても心配は些か無いのであります、又只今參りましたら御覽に入れますが、其の銅なら

ば酸味の物でも容易に溶けない、併し錆びて居れば溶けます、是等の事を畧御心得になッて、器物の御注意をなされたならば、大なる過ちはなからうと思ひます。

今日は藥學會の方に約束があッて其方に參り大へんに遲くなりました上に、また御待たせ申しては甚だ相濟みませぬ、がやがて器物も參らうと思ひますから暫時御待ち下さるやうに願ひたい、なを其間皆樣から御質問が御りますならば御返事を致します

◎妊娠の養生（前號の續）

Dr I. S.

妊婦が下を洗ふ事

清潔のヿの序でに一寸申して置きますが、彼の妊婦の陰部を清潔にすると云ふヿがある、是れは、大抵、世間で能く行はるゝ器械抔があるから、夫れで、通例列氏の檢温器で二十六度位の微温湯華氏なれば九十度位の微温湯を以て、陰部を洗滌します、是れは誠に必要のヿである。彼の白帶下と云ふものであるが、惡るい性質のものなれば、隨分害を爲します。生れたての小供が、激しき眼を病み膿毒性の結膜炎などゝ云ふ最も危き眼病になります、之等は下の方に汚物がありて、其　清潔法を怠りたる爲め、眼の中に這入ても、産婆の不注意より眼の毒が取れぬなどゝ云へは、生れながらにして失明と云ふ程にもなります。是等は隨分清潔法を以て防ぐヿが出きます

妊婦の衣服

養生法に就ては、衣食住と云ふヿを申します、是

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れは詳細に申さねばならぬ。先づ衣服で御座い升が、衣服は形容のことは捨て仕舞ッて、外來の害を防ぐ所のもので又寒中は、寒さを保護する、其外塵や何かたからない様に外から來ものを防ものでありますが、動もすれば外形に基ひて、衣服の制を不適當にし、或は又日本などの風習で、暖かのが宜しいと云ふて、暖ため過ぎる。懷妊したからと云ふて、汗を堪へて、厚着をする。是等は、最とも皮膚を緩めて、風を冒くの素因にあります。薄着は、勿論注意しなければならぬが、要するに、衣服に就ては、別に述ることも無が、餘り緊迫に過ぎざる様、餘り腹部を壓迫すれば、呼吸より腸胃の働きを妨げるに至ります。詰り程よい様に致すが肝腎です。

イワタ帶

衣服に就て一言申さなければならぬことがある、其は、彼のはら帶のことでありますが、イワタ帶と云ふて、昔から隨分説もあつて神功皇后の時分から始まつたと云ふ説がある。然しながら別に詳く書たものもなく、只口碑や一寸した書類の言傳へであります。一説には、イワタ帶とは、結肌の帶であるとも申します。然し是れは我國一般の方式でありますから、今更之を捨る譯には往きません、却て私は宜しいことと思ひますから、聊か意見をも演べますが、元來イワタ帶は、姙娠五ヶ月頃。即ち胎兒の動きが、已れ自ら感じられますと、其人自ら妊娠たるを悟りて、産婆に帶をして貰う。丁度二十週の頃に、胎兒は運動を始めますから、其際帶をするを、祝と言ひます、然らは、其イワタ帶とは、懷妊の爲めにあるかと云ふに、ソレ程

に益はありませんけれども、私は間接の益はあらうと思ふ。何ぜなれば、帶をしますと、其人自ら誡むる所の心が起る、粗暴の振舞などは致さなくなります、自分が懷妊して居ると云ふ事を、帶に因て誡めて置き升から、何の樣な事に出會ッても、斯ンな振舞をしてはなるまい、危き擧動をしてはなるまいと、自誡するの目標になるから、帶の害のない已上は、用ゐる方がよかろうと思ふ。造次轉沛も、妊娠たるを忘れぬ樣にするは、必要であるが、併し世間で此の帶をするの目的は、大に間違で居ると考る。何故帶をするかと問ひますと、小供が育ち過ぎると、産をするに骨が折れるから、成るたけ大きくしない樣にと云ふ、果して小供の成長を左程に防ぐことが出きるなれば、妊娠にも必ず害があります。私は帶はすべきものだが、緊しくしないよう、極めて緩るく、只帶が妊娠であると云ふ徴しだけに止めて置きたいと思ひます。當時は、フランネル抔で、ソット卷きますが、ソレで宜しい。一丈も一丈五尺もある布で、ギリ〳〵卷きつけるはよくは有りません。

◉日本女服は妊婦の腰下を冷やす

其外に、一ツ衣服のことに就て考へた事を申すのは、我國人の衣服の製と云ふものは、腰の周りを定規にして、下にダラリット下げる樣な工合に出きて居て、丸で空氣が下の方から、小腹部あたりには直接に達する樣になつて居ります。從來は、總て坐して居るの風俗であるから、左程に害もなく、腰卷を縮めて同じ樣なものを幾枚も重ねて、其上の方は着物です。故に妊娠したる婦人の腹部

の最も隆き所より、直立して、膝と着物の間は、餘程濶きものにあります。ソレ故に、椅子に腰をかけるとか、或は起立して事業を爲す樣な世の中になれば、非常の害をしやうと思ふ。或はシモカゼと云ふ樣なヿで、小腹に寒冷を覺へます、下腹が釣るとか、白帶下とか云ふヿがある、座して居るから宜しいが、若し起て居るなれば、日本の衣服は決して適當のものではあるまいと信じます、之を防ぐには、何うしたら宜しいかと云ふに最も簡單なる股引の樣なものを穿つが尤もよろしい、半股引の樣なものを隨意に拵へて、寒冷を防いだならば、或は之を免るゝヿが出ぎ樣と考へます る、且つ衣服は、洋服が宜しいか、和服が宜しいかなどゝ云ふヿは、今日喋々するの場合ではありませんから述べません

妊娠中の食料及飲料

次には、食物飲物です。食料飲料と申しても、其種類は甚だ多い故に、何は妊婦に益があつて、如何なる結果があると云ふ樣なヿは、記臆して一々茲に述ることは勿論出きませんが、大畧如何なものであると云ふ位をお話します。前にも既に申しましたる通り、食物に就て日本の人は、何は何の毒と言ふことを言ひますが畢竟學理に暗い所から、此の如き事を申したことと思ふ、或は醫者が己れの預りたる患者に對して、饂飩を作つたことから起つたのではあるまいか、晩夕豆腐を食ふたから下痢したのだとか、刺身を食ふたから毒になつたのだと云ふ、段々毒の領分が殖へて來てあらゆる食物が毒になつて仕舞つた。詰りは學理に昏いから箇樣な名目を下すに至つたので御座りまし

よう。食物は固より決して毒ではない、毒を食ふて一日でも生きて居ることは出きません、併し只消化の宜しきものと、惡しきものとがある、是れは能く區別しなければならぬ。世間では、蝦と云ふものは、妊娠の害になる、辛味を食へば何だとか、或は黒鯛は血を荒すなど〻云ふ唱へがあります。成程、辛しの如き極めて辛刺なる衝動性の物は身體の爲に餘り宜しくはないが、鯛とか蝦とか云ふ様なものが、世間の人の稱へる様に有毒なるものではありません。是れは尋常の食物です、ケレども、蝦など〻云ふものは、通常の人ですら中ることもあるで、腸加答兒胃加答兒抔を起すから、ソレは毒だと世人が言ふならば、之を強て毒でないと云つて食ふにも及びません、又ソンな所に義氣を起すには當りません、併し蝦も黒鯛も、決して毒と云ふ譯ではありません、畢竟食物の中で、衝動性の辛いものとか、全身を麻醉さする物とか、酒の様なものは惡るい。又平日好まないものは、食さぬが宜しい、口に慣れない物を食するも宜しくありません、近來出版の書物（醫者の書物などは勿論）百般の事が渾て歐米のことを飜譯して、彼國を以て基礎として世間に行はれて居ります、ソレ故小供を育てる時の法とか、或は牛乳を是れ〻の割合で、此の位飲ますとか、色々なとを申しますが、是れは歐羅巴亞米利加邊の法で、我國に確然と適用し、當て篏めるとが出きるかと云ふに、決して然う篏りません、故に、書物通りの事は、未だ容易に行はれません。先づ一寸、我邦の中等以上の社會の、女子社會女子の成長する程合を看れば、男子とは大に違ッて居る。先づ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

食物なども、平日チャンと限ッてあります、先づ菓子は胃に悪るい、菓物は食べてはならぬ、水は往かぬと云ふ樣なもので非常に食物に制限が有ります。所が、今歐羅巴流亞米利加流の風俗を見倣ッて、サア今日は水瓜を食ふとか、或は氷で何を製して食するとか、水を不斷に飲むと云ふ樣なことがあれば必ず其人は腸加答兒を起すとか、胃痛を起して、病人となります。實に風俗と習慣とは、衛生には必要なるもので、一々歐米の風に則とると云ふ譯には往きません、前にも陳べたる通り、頓に舊慣を革むるなど申すのであります。且つ水を飲みつけないのに、水を多く飲めば、必ず下痢をします。故に日本の人は、食後茶とか或は湯を飲むのですが、此定りたる小供の中からの習慣を改めて歐羅巴風に則り、卓の上に水がある、其水も純粹のものなら兎に角、東京の如き危き水を以て、歐米の式に則りて飲みましたならは、如何で御座いませう。水と云ふものは、是れまで口に入れたばかり、咽喉は通したとが無いのに、猥りに之を飲みましたならば、必ず病を醸します。西洋に於ては水は二となき飲料であるが、日本では白湯こそ此上なき飲料であると云ふて宜しい。寧ろ水は、麥湯位に換へて置かねばなるまいと存じます今や水道工事は非常に盛んでありますから近き内には今日の如き水は跡を斷つに至りましやうが兎に角水は沸騰させるが安心てあります。

◉產婦と蓐婦の養生

產婦と云ふ事は產を致す丈の婦人と云ふ事で、申さば產を爲しつゝある婦人と云ふ事です、蓐婦とは產を致したる後ち數週間の間蓐に在る間の婦人で、元來產婦の養生蓐婦の養生と云事柄に就て

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は、尤もお若き御方にありては感應が有りますまいから、極めて面白く無い事とは思ひますが、是は早晩御用に立つ事も有りませうと存じますから、暫く御退屈を忍び御聞受けを願ひます。
世間の申し傳へでは、産は天成であるから幸不幸と云へる事があります、故に不幸なる場合があれば是れも天成、彼れも天成と申します、固より産は天成（ナチユール）である併し其の天成と見做して何事も捨置いて宜しいと云ふものではありません、畢竟産に幸不幸を來たすは其の場合に當ッての注意不注意に關係ある事多き樣に思ひます、シテ見れば産に就ての行狀抔は中々忽かせにすべきものではない、併し産と云ふ事は大切のもので必ず昔しより其の本分を盡す人が有ります、野蠻の國は姑らく置きて開明の國にては必ず産婦を扱ふ人が有る、御承知の通り是れは産婆と申します、併し産婆は能く事に慣れ學理にも通じ年取ッた人でなければならぬので、英語でミットワイフ、獨乙語でヘーブアンメと云ふて婆の字が附いて居る、近頃産婆と云ふ婆の字は不都合であると云ふ事が新聞抔にも見へるが、元來老ひたる扱ひ人と云ふ事で、今日の如くに若き産婆が昔しには勿論なかつた事で御坐ります
併し産婦自らも又側に居る人も其の事を委しく詳かに承知致し居る事は必要であらふと思ふ、若し産をする人、並に其の廻りに居る人が、産の事柄をば十分に理解して居りましたなれば事に當ッて狼狽する事も周章る事も有ますまい、全躰産の時と云ふものは身躰の有樣精神の有樣が少しく違つて參るので有るから　産婦が平日其の事柄を

理解して居らないと却て其の時に不幸を招く樣な事が有ります、之れを理解して居らないと、血が出たとか、下り物がしたとか、痛が劇しいとか、僅かの事に驚て母兒の不幸をいたすことが有るから、平日に當て產婦も側の人も、之を審かにするが又必要であります、ソレ故私は養生といふ事に就て、前以て普通の產の形狀を說き、然る後ち追々養生の事に說き及ぼしませう。

產と申しまする事は分身分娩杯と色々の唱へがあります、姙娠の始り即ち月經の閉止してより、二百八十日目（と大抵定めて有る）に痛みを以て起ります、是れは私の申す迄もなく產を爲された方は何れも御承知の筈であるが、痛みが起る是れをば陣痛と申します、其の痛みの性質は外の痛みと少し違ッて居る、其の痛みは次第に强くなり、且つ時を限りて痛む、故に之を「シキリ」と申します、痛みが起ッたかと思へば忽ちに去り又起ると云ふ樣な工合で、產が終りましても猶痛みは續くもので、彼の子宮の縮みまする時に痛むので、後と腹とか申すが是れも產前と同樣です、醫者の方では之を間歇性の痛みと申し、極はめて規則正しき痛みです。

通常初產は手間取れる、再三になれば時間が少なく手間どれなくなります、初產が十二時間懸れば二度目は八時間位で、大抵三分の一斗り減じますしかし產致す間に時の區別と云ふものがある是れは御承知になッて置くが宜しう御座りませう、則ち三ッに分ちまして第一が開口期、第二娩出期、第三後產期、如何に手輕き產でも必ず此の三ッの時期が有る、然して產婆に於ては開口期を第一期

と申します、第一期の陣痛の始より破水と云ふて下り物がする迄でに一期は終ます、娩出期は第二期で破水より後ち兒の全躰が生るゝ迄、次に後產期は所謂第三期で後と產の下りる時、是れ丈けの順序は必ず御座ります、箇樣に時を區別して各々養生があり注意の仕方もある、然して其の順序を知らず注意の前後を間違ひれば大なる害が起る、喩へば第一期に於て事に慣れざる產婆抔は分娩に近づきぬとおやまり、頻りに怒息を附けます、併し其の時期が來たらねば決して分娩する氣遣ひもありませんし空しく身體を疲らします、其の時平日の御心得がありませんと、產婆の云ふ所を聞て間違ひとは思ひません嘘とは思ひません頻りにイキム、身體が疲れる、遂に不幸を見ると云ふ事があるから產爲す當人も、亦周圍に居る人も之を承知して置きませんと飛んだ禍に罹ります、是れにて三ッの時期があると云ふ事は御合點で厶りましやう。

先づ產に就て最も注意の大切なる事は淸潔と云ふ事です、是れは養生中の最も眼目ともなるべき事で、我が國では兎角產は不潔のものとして取扱ひが宜しくない、常には絹の褥に寐て居る人が汚れた布團で產すると云ふの風俗になつて居るが、產致す時に粗末の取扱をしたる爲めに尤も危き病を起します、其の病は昔しより左程注意もせず人か心付きませんでしたが、近來病理學が進んで彼の產後の熱病、產蓐熱と云ふ如きものは全く不潔より來りしと云ふ事を知り得ました、コハ屢々世間に見る所の病で、大熱となつて腹膜炎に類した病だが、元は不潔より起りたる傳染病の一種です

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

傳染病の種類の中ちに加へてあるが、其の原因に就て調ぶれば全く外來の傳染と云ふ事です、實に恐る可きではありませんか、外とから來るものなれば、其の不潔を除くより外に防ぎ方はありません、實際我國では昔しより産の時にはボロを澤山に用ひます、家が新らしくしてボロが不足なれば親類から態々ボロを遣ひ物にするのだが、是れも風俗習慣より一般にボロでなければならぬ樣に思ふのだが、元來ボロと云ふものは不潔物を含むものであるから、なるべく除ぞかなければならぬ、併し只今申したる蓐熱と云ふ熱病は、啻にボロからのみ起るのではない、其の他の不注意よりして來る事も有るので、産婆の不注意から手をも洗はずして其の儘陰部に手を入れる抔と云ふ所から病を釀し、其の外不潔の海綿抔を以て陰部を拭ひたり洗ッたりして病を起します、斯の如く外來の毒よりして病を起すのであるから、勿論古き海綿抔は用ひぬが宜しい、産には洗濯した布を用意して古き物でも已を得んならば能く洗うが宜しい、又普通の綿を用意するが宜しい、綿にも色々種類が有ッて古綿を打直した物抔もあるから是等は注意しなければならん、年寄なぞは此理をしらず。ドウセ捨るのだから宜しいと云ふて惡るい綿や布を用ゐるのであるが、害を防ぐ所より云ば成るべく奇麗に宜敷綿を遣うが宜しい。産婦の在る家に就ての注意は、只今申す通り、總ての不潔を避け、産室には手を洗ふ湯も澤山に備へなければならん、手を洗ふては又扱ひ、扱ひては手を洗ふ樣に産婆の手を淸潔にするに注意しなければならん、一般の人情からして、些末の事迄に人を遣う

のも氣の障だからと云ふ點から、先づ其の儘に扱ふと云ふ樣な事が有るから、其所は周圍の人が氣を附て石鹼を備へ湯を澤山にして、手拭を遣うにも一度用ひた手拭は二度用ひぬ樣に仕なければならん、又海綿杯も二ッも三ッも備へなければならず、產婦の陰部や兒の汚れを拭くには、皆清潔と云ふが第一の手段です。

其の外產を致す前に、醫者とか產婆とかに就て產の時要用の物を備へる、大抵の物は葛籠の中杯に入れて土器小刀杯は備へてあるが、まだ足りない其の外に洩器、灌腸器、イルリガートル、石炭酸水杯が必要です、元來灌腸器杯ハ如何なる家にでも入る物であるが、兒を灌腸して遣る位の事は是非しなければなりません、產を爲る前には必ず一箇々々備へなければならず、且つ產蓐に就く前の注意と云ふものがある、是れは矢張清潔の一に屬するが髮を解き櫛づる事で時に依ては半身浴を爲して十分に下の方を淸めます、產後數日の間は髮を解す事も出きませんし、痛みの稍始つて產の下地位と思つた時は是れも致した方が宜しい、詰り清潔の一つです、其の外躰力を養ふ事に就て產前に注意しなければならぬのは、彼の飲食物です、譬へば滋養物が欲しいとか、淡泊の物を望むとかすれば、隨意に之を與へるが宜い、產を爲すつた方は何れも御承知の通りだが、產と申すものは甚た力の入るもので、痛みの強くないうちに、如何なる大敵でも引受ると申す位に躰力を拵へて置けば、大に都合の宜しきものです。

◎產　室

產室に就て是より御話します、如何なる家でも產

産婦と孱婦の養生

室は勝手の次の間と云ふ樣な暗い所で、騷敷所ですが是れは餘り宜しい事ではありません、成る可く産部屋は、空氣の流通も宜敷（と云つて風の通るといふ譯では無い）餘り狹くない方が宜しい、狹いと中で働くのに不都合です、光線の能く徹る事の出る部屋で、日中光線の徹る部屋は夜分に大層快きもので、冬なれば煖かくなる、然るに我國の産室は、皆冬は寒く、夏は暑く、薄闇くして狹い、甚だ不都合になつて居ります、産所とか申して、我國では古くより行なはれて居るもので、彦火々出見尊が豐玉姫の爲めに鵜羽を以て産舍を作つたと申す事がある、故に別に産所を拵へても宜しいものだ、併しながら部屋の位置はなるべく靜の所が宜しい

産を致す所の床を産床と申します、如何なるものが最も適當かと云へば、西洋形の寢臺が一番宜しい、けれども如何なる家でも寢臺が備へて在ると申す譯には參りません、故に普通の布團の上で致しますがそれでも宜しい、扨床をとる場所に就て何處が宜しいか撰ばなければならない、十疊敷とか十二疊の部屋とか其の中ちで何處に床を拵へて宜しいか、先づ坐敷の中央よりは少し端じに依つた方が宜しい、併し壁に附ては往けません、又人の出這入りする壁の際とか、窓の下抔は宜敷ありません、ところが中等以下の者が産を爲る所を見れば、中々然うは往かん座敷も勝手も一所で隨分氣の毒なのがあります、簞笥に足を踏み掛けイキムとか、米櫃炬燵櫓に釣る下がると云ふ樣な、色々人の位置に依りて趣が違いますから、一概に極めて申す譯には參りませんが、先

づ床をとるに就ての必要は、産婆に聞くが宜しい、併し産婆が前々から附ては居られませんで、夜る夜中に腹が痛ひソラ婆さんと云ふて居る間に、家の者が遽てゝ床を拵へる様なものだから、前以て其の位の注意はなければならん、兎に角産に就ては不潔物で他を汚さない様に注意しなければならん、故にゴム引きの布とか（人力車の幌に用ふ）若しくは桐油紙抔を以て防ぎと致します、我國の習慣では薦にボロ位で防ぎと致しますがコハ甚だ亂暴の至りと存じます、且つゴム引布又は桐油紙を二枚程準備するが宜しい、一枚は産の時に用ひ、一枚は産後に敷更へるのです昔しから好く「居直り」と申して床を直すのか一般の風習だが、私は其の様な事をせずとも宜しいと思ひます、奇麗に掃除の出きる様にして、跡に敷き更へるからソレで宜しい、居直りの爲めに血暈と申して眩暈甚敷醫者の力でも之を療す事の出來ぬ程の病となり、從て子宮の位置も變ずるから産後は成る可く安らかにするが肝要で、決して居直りを爲すには及びません。

床のとり方は、一躰上み高く下も低く、頭は高く腰を低くなる様にする、是れは産婦の云ふ所に從て作るが宜しい、最う少し高くとか低くとか極めて産婦の快きを主とする事で、産婦が斯う云ッたとか醫者が斯云うッたとか申す譯には參りません、其の邊の注意も一つ肝要です。

我國では一般に座産の風で、是れは日本國中一般と云ふても宜しい位です、併し歐羅巴の文物移り來たるに從ひ、座産の風俗は變じて臥産と云ふ事になりました、今迄日本では産と云ふものは

踞てしなければ出きぬものと思ふたが故に、老人抔は「聞けば寢て產をしたさうだが飛んだ事だ」と怪しむ位であるが、併しながら寢て產をした方が座てするよりも遙かに益も有り優つて居ります、我國の樣に座產とすれば如何なる害が有るか、餘りイキミが強く懸ります、且つ踞て居ッてイキムから或は後部に疵が着くと云ふ樣な事がある、段々調べて見ますると座敷に依て疵を受けた者が日本には非常に多ひ、西洋の如くに橫になッて產をすれば其の樣な憂ひも無く、極はめて穩かにしてあるから、脫血して眼を回す樣な事も無い、其の他不時の病を引き起す樣な事もない、併しながら時と場合とに依ては強ち座て居るが惡るいと云ふ事はない、腹の力が足りない時は、寢て居るのを殊更に起す樣な事があります。

◉產婦の衣服

產婦の衣服は寒く無く暑く無くと云ふのが最も宜しいので、其の外身躰を嚴敷締る樣な事は宜しく無い、ボタン抔は餘り宜しく無い、被覆すべきものは成る可く輕便の物で、大きな夜具を用ひる抔は扱ふ上に取ッて不都合です、先づ小搔卷位が宜しい、殊に第一期の末になれば身躰に熱を加へ發汗します、此の際餘り上へに大きな物を掛ければ却て疲勞を增す樣な事がある、成る可く注意して汗でも出樣としたらば涼やかにして遣るか宜しい衣服には別に申す事は無い。

◉飲食物

產の最も初め痛みの強くならない時に隨意の食物を與が宜しい（消化の惡るい物は餘り宜敷もないが）又飲み物も同樣で、湯でも、麥湯でも、茶で

も、水でも、乃至牛乳でも、欲しき物があらば與へて少しも差支ない。

扨産には三ッの産が有ると申したが、總て分娩の間は精神の感動を避けると云ふ事が肝要です、哀き事でも、憤ふる事でも、喜ぶ事でも、極はめて感動し易きものである、私が是れ迄經驗したる處に依れば感動に因て陣痛が不規則にある、産婆抔が申す陣痛異常と云ふ事になります、中にも微弱と云ふ事がある、今迄非常に痛んだのが拔け失せてトント痛みが無くなる、之を微弱と申します、時として其微弱が強くあるのを、眠り腰と云て、時々痛みが來たかと思へは眠氣を催す、三日も四日も懸るので、悉く精神の感動よりと云ふ理由でも有りますまいが、重に是れが原因となります、又痙攣性の陣痛抔と云ふがある、是れは一部分の痛みは非常に強く、其の他の部分は痛みが無いのです、又痙攣によりて癲癇に似たる病を起す事もある、右の如き次第であるから、産に用の無き時は話し聲が産室に聞へぬ様にするのが必要です、産婦の世話をして居る周圍の人は、産婦の精神を感動する樣な事を聞かせてはならん、又産婆の不注意よりして何處の孰れさんは難産したとか、産婦に聞かせて産婦を感動せしめ、産に陣痛異常になる事が有る

以上は第一期の御話しだが、此の時は産婆は注意して厠へ登る事を許さない、何う云ふものか産前には兎角厠に通ひたがるもので便の通じる氣味合で便所にて直ちに出産すると云ふ樣な過ちが起る、是れは初産の婦人に就て注意すべき事です、又初産婦は破水と云ふ事を注意するのが肝要で、

如何なる工合に痛みが強くなり、其の末には斯く〳〵になると言い聞かせて置かなければならん、始めてゝすど驚ろく事があるが、靜かに聞けば腸でも破れたかとでも思ふ程の音がする、故に痛みが強くなつてから數時間の後ちは破水があるから、と理解して教へて置くが宜しい、且つ破水に付て注意すべきは、我國では破水と出產と一所位の事が多いが、西洋の書物を讀めば中々其の間が長い一躰日本人の產は易いから破水後直ちに生れる樣になるので、此の邊は豫め注意して置くが宜しい。

陣痛と申す事は前にも述べた通り極まりのある痛みで、最初十五分位痛みが有つて又良くなる、十分時間位痛みが越る、又去る、遂に五分時間と云ふ樣に痛みの間が短くなります、故に此の規則正しき痛みなればコハ產の前兆と見做します、已に前兆と悟ればソレ〳〵準備を致す事が必要で、先づ第一着に湯を沸す事です、手を洗うにも、生湯を遣うにも、皆湯です、幾らも世間にあるが、若い人達の居る家に行つて見ますと最初五六時間の後ちに至つて湯をと乞ふても、まだ湯は沸しませんと云ふ樣な事がある隨分年少き人抔には有り勝ちの事で甚だしきは水で生湯を遣はせる譯にも往きませんで、隣から湯を貰うと云ふ樣な事がある、是等は前以て承知して居らなければなりません。

又序に御話し申しましやう、そは產婆の處に使を遣る事だが、使と云ふ者は必ず一人豫め定めて置く方が宜しい、一躰產婆の家は至つて奥の方に引込んで辻の稻荷樣から三軒目跬溜の隣抔と云ふ

分り惡くいのだから、慣れない人には見付りません、殊に深更などは故に陣痛が始りたらば、定めの使が走る、尤産婆の家は蚫貝が釣るして有つて夜分でもピカリとする、是が目印となるのだが何番地某と名乘て使者の主意を詳にすべし、又使の者の注意は産婆の家に行きて必ず同伴して來ると云ふ事です、左も無いと自分の内でさへ戸惑ひする人もあるから夜分杯寢耳に水で何處から迎ひに來たかも分らず、途方もない間違つた家に參り、遂に出産の間に合はぬ事が屢々有る故に、産婆の使も餘程六ケしいもので、最初の注意が肝心です、斯んな事迄養生の中に加へては可笑いが、是れも注意の一つです。

まだ産を爲る迄には少し隙間どれさうですから今日は是れで御免を蒙りませう。

◎芳賀軍醫正の西比利亞遠征談

軍醫正醫學博士芳賀榮次郎氏は獨逸よりの歸途西比利亞旅行を思ひ立たれ前途有望の身而かも蒲柳の質を以て決然袂を奮ひ内外知友の忠告を後にして獨都伯林を出發し爾來數月間茫々たる不毛三千余里の大曠原を單身孤獨一劍を友とし或は山野に露宿し或は寒村不測の茅屋に泊し悲風悽雨慘憺の辛酸を淩き幸ひに病魔の煩累もなく豐富の材料を得て此程無事歸京せられたるが丈夫氣骨なくして如何んぞ身を犧牲に供しよく此探撿を全ふすべけんや決して常人の爲し得べき處にあらさるゝ曩きには福島大佐の單騎旅行あり今又芳賀軍醫正の此擧あり兩雄の壯擧は以て歐州人の心膽をして寒からしむ豈壯絶ならずや芳賀氏今回の旅行たる世間

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

多く之を知る者少し蓋し氏の眞意は固より名譽の爲めに願はず親しく內地の觀察より軍隊衛生の事に關し秘密に探究せられしことゝて世人の知らさる者多きも又宜なる哉氏は歸朝後本會の爲めに獨逸婦人の事情に就き演述せられたるが頗る有益なる者にして其筆記の本誌に顯はるゝも亦近きにあれど人々の聞かんと欲するは氏の西比利亞旅行談なり此頃千代田新聞紙上に登りたるを見余は先づ先生の僑居を訪ひ其轉載の事に及ひたるに快く承諾せられたれば倘其誤謬の訂正を乞ひ左に登載することゝはなしぬ但し左に掲くる所のものは醫事衛生に關する梗概に過きざれば倘旅行談としては別に詳説せらるべしとの事なり偶々來客あり談婦人衛生と敎育の事に及び內外の事情に對比し利害得失を詳論し快談數刻再會を期して辭し去れり。

〰〰〰〰〰〰〰〰

余が今回の旅行は單に伯林より浦鹽斯德迄を素通りにせしまでにして素より其地方に在留せし譯にあらされは其見聞せしことも多くは一通り耳目に觸れしことのみに止まり詳細なる事情に及はざれとも何分長途の旅行なれは其間自ら注意を惹きし事柄も少からす尤も取調の要點は主として軍隊衛生にありしか故に是に就ては隨分種々の事實もあれど是は重に軍事上に關する事して一一說明し難し尤も學術上の事は他日取纏めて世間に表明するとあるべければ其時に讓り今日は足下の希望に委かせ先つ普通世人に解し易き事より語るべし余か今回の旅行は特別の意味ありしに非す初め余は伯林にありて重に獨逸の事實を取調べ居り魯國

の事情などは少しも知らざりしが竊に思ふに從來本邦人にして歐羅巴各國の事情に通せる者は甚多きも露國の事情を熟知せるものは極て少し尤も公使館の人や外務省の官吏等には多少事情に通ずるものあるへけれど醫者などにては未だ聞かざる所なり然れども方今の形勢より察するときは露國は近來我邦と一種緊接なる關係を生し國勢上日に益重要に傾むくか如し隨て軍事上其他醫事衛生上に於ても通商貿易に於ても研究を要すへき事極めて多からむ余は日本國民の一人として此國の概況を解釋せばやと思ひ此に始めて露國に行くの志を起し西比利亞旅行を企てたり恰も其頃第十二回萬國醫學大會の露國莫斯科に於て開會せらるゝに會し余は我帝國陸軍々醫部を代表して出席せるか故に露國政府の招待に依りて日日觀覽に忙しく寺院學校官廳病院會社工場其他種々雜多の事物を歷觀し凡そ三十日余露國にありて大抵のものを見盡したり尤も平日あらは彼方も忙しくして容易に見せまじき所も今回は政府の招待故大概のものは遠慮なく觀覽せしめたるか如し隨分裝飾を加へ外見をよくして示せしが如し

總体露國に於ては地方人民の困窮甚しく村落と都市との懸隔極めて甚し若し露國に入りて其都府を一覽するときは何人も其壯大に驚くべし街衢端麗にして官衙宮殿は巍々雲表に聳へ到る所國教寺院の大伽藍ありて堂塔高殿建造いづれも壯大あり然れども一朝出て村落の間を逍遙するときは更に其民戸の餘りに卑陋にして生活の餘りに低度なるに驚くべし露國の實力を知らんとするものは彼等村民の情況を一見せすんばあるべからず余は本邦

人の露國に行くものにして徒らに都府の壯宏なる事物のみを觀て村落人民の憫然なる狀況を見落すことなからむことを望む

今西比利亞の事を語らむとするには先づ歐羅巴の事を語らざる可らず露國に於ける西比利亞は猶ほ日本に於ける臺灣の如し歐羅巴露國の事實を知らざれば西比利亞の事を了解すべからざる事多し故に先づ歐羅巴露西亞の事より述べむ

一般制度中醫事衛生に付ては露國は歐州各國と大差なきが如し露國に於て醫士と稱する者は必ず露國醫科大學の卒業者にして醫科大學の卒業者にあらざれば醫士と稱するを得ず且開業の權能なきものとす故に露國に於て醫士と稱するは露國醫學士に限る而して此醫士を養成する學校は全國を通して十箇校あるのみ其修學期は五箇年なり此十箇大學に於て年々若干の卒業生を出し陸海軍及び官公醫等は何れも此れより採用するものなり目下全國歐亞を通して此醫學士は凡そ一万八千人許あり露國に於ける醫士の免許を醫學士に限れるは其端正なる制度にして此點に於ては我邦の醫師たる資格に數種ある現行制度よりも進歩せるものと云はさるべからず

（未完）

衛生叢談

◎學校の衛生上に及ぼす害

兒童の學齡に達して小學校に入校するときは一般の習慣一時に改まるものなり、即ち戸外の新しき空氣中にて罪なき遊技をなしたるもの急に塵埃多き室內に閉じこめられ强て靜粛を旨とし專ら心を

敎師の言動に注ぎ又過失をなして罰せられ又は同級の者と競爭をなし遂に兒童の愛すべき無邪氣なる心は大に變化するものあり然して顏色も快活ならず食氣頓に衰へ睡眠は安靜ならず時々恐るべき夢にをそはるゝが如く一般に過敏の性となることあり

又椅子にかゝり書物を讀み特に文字を習に當り机の高さ椅子の工合等により身躰を右又は左へ或は前へ曲ぐるが如き習慣を生じ遂には亀背、脊椎側彎となることあり

又學校の敎室の大さ光線のとり方により近眼となるもの多し然れとも近眼となるは學校の注意行き屆かさるによるのミならず兒童書見の際眼を書籍に近づけ或は夜中に讀書するの惡習慣或は書籍の文字小に過ぎ判然せざる等のことも其原因となるものなり今左に種々の學校生徒百人に付き近眼なるもの丶數を擧けん

村落の學校	一人四分
都會の學校	六人七分
高等女學校	七人七分
中學校	十人三分
高等普通學校	二十六人二分

學校の敎育其度を失ひ過劇なるときは時として兒童の發狂を促すが如きことなしとせず

學校は多人數の人密集する處なるを以て傳染病を相傳染することありたとへは痲疹、猩紅熱、「チフテリヤ」、百日咳、の如きものは學校にて傳染すると多し故に學校にて衛生上の注意充分ならざるときは傳染病流行の媒となることあり

西洋にて二萬以上の學校につき其生徒を診察すれば百人に付四十四人以上の病人を見出せりと云ふ

學校の衛生上の注意充分にて欠くる處なきにもせ

よ多少の病人あるは免れざる處ありと雖も百人中に四十四人以上の病人あるが如きは余り多きに過ぐることにて學校の衛生未だ充分ならずと云ふを得るなり

又入校の後一ヶ年の間には割合に病人少なきも二年生又三年生となるに從ひ病人の數頓に增加するものありと云ふ又生徒の父母の位置宜しくして多少衛生上の注意をなすものには患者少なしと云ふ以上云へる處により學校の衛生上に大なる關係あること明なり故に一家内の衛生に心を用ゆるのみならず廣く一般の衛生即ち學校の衛生に付き力を盡さゞれば智育躰育を兼備へたる有爲の兒童は得られざるものなり

○肺を強壯にする法　或る名醫の方案にて現今歐洲諸國に持て囃さるゝ肺臟を丈夫にする法なりと云ふを見るに先づ充分直立して肩を後に張り胸を前に出し兩腕を身体に着けて眞直にたれ唇を緊と結びて上に向き靜かに空氣を吸ひはじむると同時に手の甲を上にして頭上に達する迄段々と腕を揚ぐべし（空氣の一杯肺臟に充る其時丁度手も頭上に達する樣注意すべし）斯くして此儘に五秒乃至三十秒程過ぐるを待ち夫より息を吐きながら徐々に兩手を下ろし元の通り身体に着く時は早や肺臟に充ちたる空氣を大抵吐き出す樣にすべし以上の通り一度に五六回つゞくり返して一日の内には度々これを試むべし右の法を行ふに衣服は何なりともかまはず又直立するかはりに床上に仰き臥して行ふも妨けなきのみならず時によりては却て利目あるべし

○鯉魚結核病　近着の佛國文學雜誌に鯉魚の結核病に就て報ずる處あり其略に曰く魚類の結核病は余等の知れる範圍内に在ては未だ其前例を見ず然るに近來之れに關する確實の報に接せり开は或婦人にして肺部及び腸部に盛んに發育せる結核菌を鯉魚の充滿する池中に投じたるものあり是れ略痰と糞便中にありたるものを以てしたるものにして鯉魚は之れを食ひ身体に腫れを生じて死せるもの甚だ多かりし或人之れを取りて其肝、脾を始め他の諸部を檢査したるに無數の結核菌之れに居座を占め居たりと尙ほ此例に鑑み他種

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の魚類をして人又は兎、鴿等の結核を食せしめたるものありしも何れも同樣の徵候を呈はし二週若くは三週の間に死に陷れりと、斯の如く魚類は動物より結核病の傳染を受け又其魚類間互に相傳染し得べきも其冷血の爲に毒分を減殺し温血動物をして直接之れに感染せしむることは其虞れなかるべきを信ず然れども其結核病に罹れる魚類を食することは甚だ危險なりと云はざるべからず云々（大日本私立衞生會雜誌）

○各國人の平均壽命　歐米諸邦を始め全世界に於ける各國人種の平均壽命年限に就ては古來より統計學者の說數多あれども吾古川醫學士の調査に係る最近十年間を通算して一年間の死亡者千人に對する平均壽命は左の如しと云ふ

國別	死亡數	壽命年	國別	死亡數	壽命年
露西亞	三七、四	二六、七	白耳義	二五、〇	四〇、〇
獨逸	二二、八	四三、九	和蘭	二八、〇	三五、七
澳匈	二八、〇	三五、七	西班牙	三〇、〇	三三、四
佛蘭西	二五、〇	四〇、〇	伊太利	三〇、〇	三三、四
英吉利	二〇、〇	五〇、〇	瑞典	一九、五	五一、三
瑞西	二五、〇	四〇、〇	日本	二五、八	三八、八

◉痲疹

此疾病は人より人に直に傳染するものにて若し此病氣一度都會に入るときは直に全き都會中に流行するものにて即傳染の力甚だ強きものなり今試みに此患者の血液涙液をとり健康なる人に接種ときは直に痲疹病となるものなり又此病症は直接痲疹に罹れる人に觸るゝことなきも傳染することあり故に此病の毒物は空氣中へ塵埃と共に散亂するものなり、又小兒の手遊物に此毒物附着して之に觸れたる者に傳染せしこともあり東京の如き大都府には何れかに此病氣流行しをり決して絕ゆることなく何か流行に適當なる氣候の工合により全市又全國の大流行をなすことあり寒冷なる時期には流行甚だ多し却て夏期の流行は稀なり、人間は此痲疹の毒に對しては抗力弱きものなり故に大抵三才より七才迄の間に此病に罹るもの多く若し一度之に罹るときは多は再び傳染することなし、

痲疹の症狀は初め突然に大熱を起し、羞明、涙涕又

は鼻汁を流し時々乾咳をなす一二日の后熱は一度下り又一日の后再び高熱となり初め面部に米粒大の黄色又は褐色の發疹をなすものあり以上の如き症候を發するときは直に醫士の診斷を受け充分消毒を行ひ他人と別居せしむべし

◉齒痛

此病は日常尤も多きものにて其原因は色々あり腦より出づる神系の通路に病氣あるときに生ず然れとも尤通常の原因は齲齒と云いて齒牙の敗崩して孔を生ずるによるものあり又此齲齒の原因は人の稟性により生來齒の弱き人に多し然れとも齒の攝生宜しきを得ず猥りに硬き物を咬み冷熱の差甚だしき食物を飲食し或は食后口中の掃除不充分にて食物の殘片齒の間に殘り齒石を生し遂に齲齒となることあり故に日常食後には必ず清水にて口中を洗ひ小楊枝にて齒間を掃除し特に齒の裏面を叮嚀に摩擦すべし齒痛甚だしきときは頰に芥子泥を貼し微溫湯にて數々含嗽すべし齲齒の孔内は柔きものにて清潔に拭ひ綿に石炭水酸を浸して孔内を塡充すべし

齲齒の病毒増々深く入りて顎骨を犯し頰又は顋下へ口を發くことあり故に齲齒はなるべく速に醫士の治療を受くるを宜しとす

◉氣候と病との關係

氣候は人の健康に大なる關係あるものにして不適當なる氣候の處に住居するときはたとへ藥品滋養物等に心を用ゆると病症少しも輕快せさるものにて、たとへば毒物を含む水中に魚を養ふか如し又健康なる人と雖氣候宜しからさる處に生活するときは病に罹りやすき性質を受くるものあり又四

期の氣候の中にても九夏三伏の暑中の如きは重症患者は元より健康の者と雖も傳染病に罹り命を失ふもの多し又肋膜、肺等の病氣には寒冷なる氣候は不適當となる今毎月患者死亡の數を割合にて示せば次の如し

一月	一〇五	七月	九六
二月	一一一	八月	一〇八
三月	一一二	九月	一〇四
四月	一〇四	十月	九二
五月	九八	十一月	九一
六月	九一	十二月	九四

此表によれば年々一月より四月迄は死亡尤多く八月九月の兩月も又死亡少なからず小兒の死亡は多く暑中にして老人は二月三月の頃に死すること多し何となれば小兒は生活の力大人に比すれば弱きものなるが故に大人にては差して恐るゝに足らざる胃腸のカタル位の病により命を失ふものにて斯くの如き胃腸の病氣は多く暑中に來るものなればなり又老人の死亡は多く慢性にて漸々衰弱にをちいり遂に命を失ふが故に寒冷の期節に其死亡多きものなり

次に明治二十五年より二十九年迄の人口生産、死亡を記さん

	生産	死亡	人口
明治廿五年	百二十万人	八十八万人	四千百万人
明治廿六年	百二十七万人	九十三万人	四千百三十万人
明治廿七年	百二十万人	八十四万人	四千百八十万人
明治廿八年	百二十四万人	八十五万人	四千二百万人
明治廿九年	百二十八万人	九十一万人	四千二百七十万人

大日本婦人衛生會記事

◉十二月例會　十二月三日第一土曜日午后一時より小石川區安藤坂下小石川區役所會議室に於て本會の例會を開きたり此日や折惡しく朝來の雨天にて道路も泥濘を極めしかば來會者も如何あらんと懸念せしが參會するもの無慮二百五十余名にして第一席には陸軍々醫正醫學博士芳賀榮次郎君には

獨逸婦人の風俗慣習衛生等に付き演述せられたり氏は獨逸より西比利亞三千餘里の道程を無事に旅行せられ此頃歸京せられたれば其演述最も爽快なりき第二席にはドクトル飯盛挺造氏の試驗的演說ありて雨中ながら頗る盛會なりき

廣告

●入會者

○中島いの子の紹介に依り

岐阜縣々立病院內　武藤しん子

岐阜縣岐阜市東司町三十七番地　吉安のぶ子　岩村玉子

○福原とく子の紹介に依り

神田美土代町二丁目一番地堀口昇方　山岡みき子

○辰巳とみの子の紹介に依り

大坂北區曾根崎千六百廿三番邸　久德きよ子

岡山縣岡山市四ヶ物町廿三番地　高木操子

○濱尾作子の紹介に依り

小石川區竹早町八十番地　三浦とめ子

○遠藤とし子の紹介に依り

第一醫院　佐藤さだ子

○蘆澤さくの子の紹介に依り

長野縣長野市長野病院內　土藤はま子　久保田ちか子

日本赤十字社看護婦養成所　土尾よね子　小澤うめ子

●移轉者

芝公園第七號地壹號へ　早川春子

麴町區元平川町九番地へ　杉原ひさ子

芝區三田綱町十番地へ　上村きよ子

麴町區虎の門內海軍省官舍へ　齋藤春子

芝區源助町十一番地へ　澤田たま子

下谷上根岸六十三野澤方へ　三穗のぶ子

麻布區網代町一番地へ　吉澤まき子

牛込區砂土原町三丁目十六番地へ　西川ふみ子

靜岡縣靜岡市師範學校へ　梅村甚太郎君

靜岡縣靜岡市安西四丁目四十五番地築地別宅へ　大島織兄子

芝區東町五十四番地へ　加藤展子

兵庫縣神戶市神戶女學校內へ　俊野岩子

麻布區飯倉片町三十三番地第五號へ　淺野かま子

●正誤

前號入會者中飯田みき子とあるは坂田末喜子の誤り

十二月　大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會規則摘要

一凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり

一會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

　但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

一本會々員を分て修身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

　但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中女生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

一男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し

一本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

一毎會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

一會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々塲に誘致して傍聽せしむるとを得

一講義演説の際男子の傍聽を禁ずと雖も會員に縁故ある男子は此限にあらず

一會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

一會費は郵便小爲替にて東京神田佐久間町郵便取扱所へ向け振出しある可し

　但不得止塲合には郵便劵を代用するも妨けな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

し尤も一割増とす
一入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふべし
一每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し
一至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得
一各地方にて發起者十八以上ある者は支會を設くることを得
但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし
一本會の集會場は時々報知する者とす
一會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らされは受領證は送付せざるものとす

東京下谷區練塀町四十三番地
私立 大日本婦人衛生會

● 齒科診察 午前八時ヨリ 午後三時マデ
東京日本橋區本町二丁目十二番地
齒科醫 高橋孝子
齒科醫 高橋虎一

廣告料	
一頁	金二圓
半頁	金一圓
一行	金六錢五厘
總て前金さし割引せず	

明治三十一年十二月十八日印刷
明治三十 年十二月二十日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎
印刷所 神田旅籠町貳丁目拾一番地 同所 廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可毎月二十日發行
（定價金拾錢）